

皆さんのエコ活動を応援します！

相模原市立 環境情報センター



こども エコクラブ

地球にいいことはじめよう

会員募集中！



仲間を集めて自分たちのできる、
身近な環境活動に自由に取り組もう！



こどもエコクラブとは、幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的としています。保護者・指導者、自治体の方、企業・団体の方々といった様々な方からご支援ご協力をいただきながら、全国事務局からプログラムや場の提供をしています。

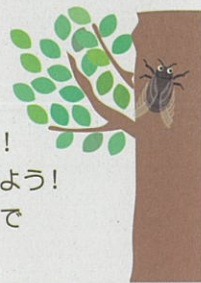


会員登録は相模原市立環境情報センター窓口か、「こどもエコクラブ」Webサイトから！
<http://www.j-ecoclub.jp/>

体験してみよう！



8月20日（火）相模原北公園で
こどもエコクラブ交流会があります！
みんなで相模原のセミを調査してみよう！
詳しくは相模原環境情報センターまで
お問い合わせ下さい



環境のちょこつと話 No.31

ホタルの光のやくわり

ホタルが光るしくみは、とてもうまくできています。人間がつくった光である電球などは、必ず熱が出て熱くなりますが、ホタルが出す光は、熱が出ません。人間の技術ではできないことを、ホタルは大昔から実現していたんですね。

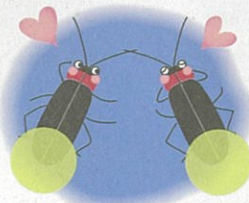
ホタルの光り方は、おすとめすとでも、種類によってもちがいますが、同じ種類でもすんでいる場所によって光り方がちがうそうです。

ゲンジボタルは東日本では約4秒おきに、西日本では約2秒おきに光るといことがわかっています。わたしたち人間の方言と似ていておもしろいですね。

光を出すホタルはおもに夜活動するホタルです。暗いところでも仲間と交信ができるようにしています。

いっぽう、昼に活動するほとんどのホタルは光を出さず、おもに「におい」を出して仲間に合図をしています。

ホタルの光の一番のやくわりは、おすとめすが、けっこんの相手をさそう合図だそうです。



相模原市立 環境情報センター

〒252-0236
相模原市中央区富士見 1丁目3番41号
TEL. 042-769-9248 FAX. 042-751-2036

- Eメール kankyo@eicwits.com
- ホームページ <http://eic-sagamihara.jp/>
- 開所時間 午前9時～午後5時
- 休所日 毎週木曜日、年末年始、施設点検日



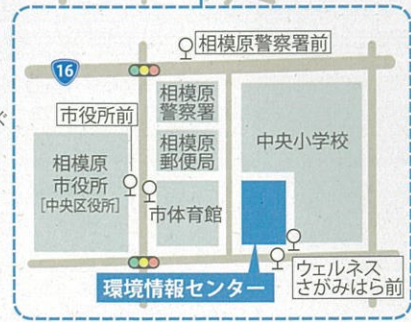
フェイスブック
もみてね！



交通

- JR相模原駅から
① 徒歩約20分
② バス「市役所前」下車徒歩2分
「ウェルネスさがみはら前」下車すぐ
- JR上溝駅から
① バス「市役所前」下車徒歩2分
- 車でお越しの方
環境情報センター及び周辺の市役所
駐車場をご利用ください
(2時間までの駐車は無料)

なるべく公共の交通機関をご利用ください。



いかがでしたか？他にもいろいろなテーマのセンターNEWSがありますので、ぜひお立ち寄りください。

この印刷物の紙は、環境に配慮した再生紙を使用しています

環境情報センター NEWS

夏号

令和元年7月1日発行

発行：相模原市立環境情報センター
指定管理者
株式会社ウイツコミュニティ

ホタルの里つて どんなところ……



Photo : shutterstock

わあ、ホタルがたくさん。
キレイだね！

ぼくたちの町でも
見ることができるんだね。

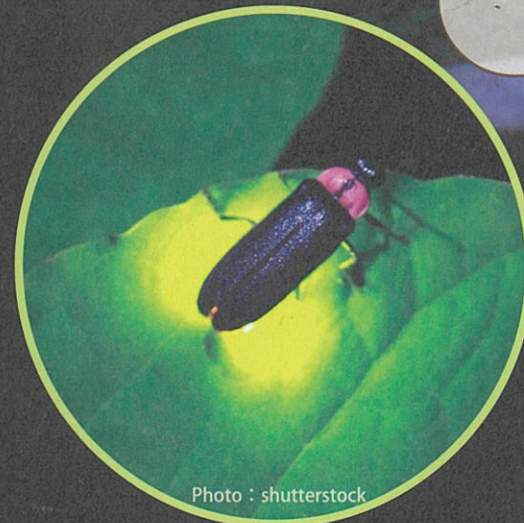
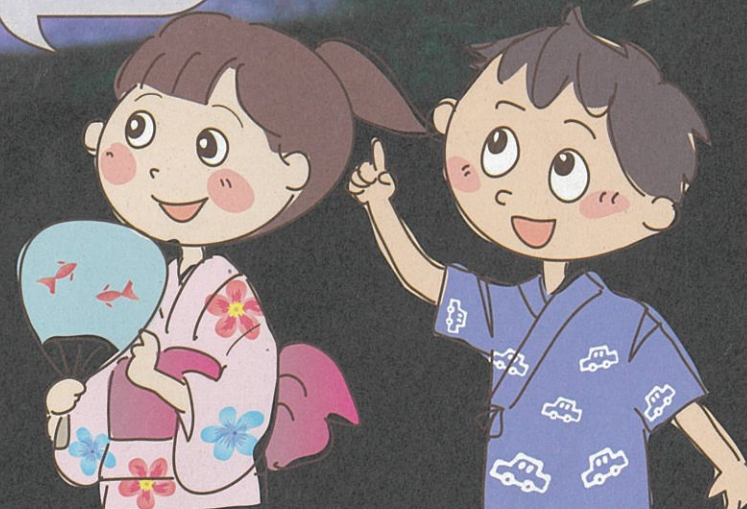


Photo : shutterstock





ホタルが見たかったら、つかまえてきて放せばいいんじゃない？

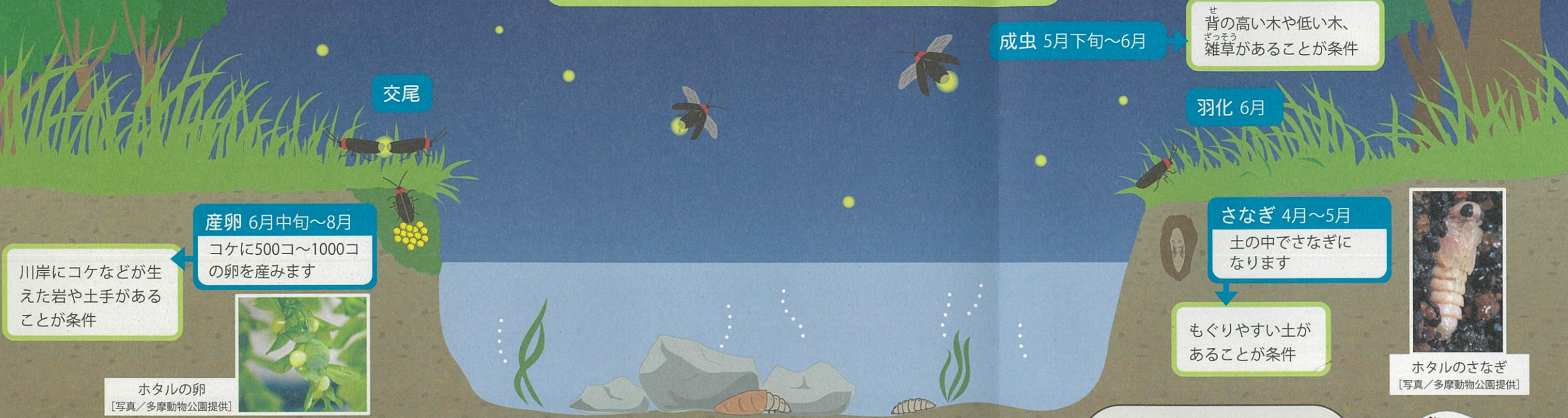
それはちがうよ！
ホタルが育つための環境が大切なんだ！



私たちの周りには、たくさんの生き物がすんでいます。私たちも含めて、たくさんの生き物がいろいろな場所で互いにつながり合って生きていくことを生物多様性といいます。水みどり環境課では、その生物多様性を守るための取組を行っています。例えば、市内に広がる森の管理をするるとともに、きれいな水の象徴であるホタルのすみかとなる水辺を守るための仕組みづくりを行っています。また、もともと日本にいなかった生き物で、人の手によって持ち込まれたアライグマなどの生き物の数を減らすための対策も行っています。



ホタル(ゲンジボタル)の成長過程と、生息条件



川岸にコケなどが生えた岩や土手があることが条件

産卵 6月中旬～8月
コケに500コ～1000コの卵を産みます



ホタルの卵 [写真/多摩動物公園提供]

成虫 5月下旬～6月
背の高い木や低い木、雑草があることが条件

羽化 6月

さなぎ 4月～5月
土の中でさなぎになります



ホタルのさなぎ [写真/多摩動物公園提供]

もぐりやすい土があることが条件

幼虫 7月～翌年4月
川底に砂利、小岩、こぶし大の石があること、川の中に流れがおだやかな場所があることなどが条件

巻貝やカワニナを食べます



ホタルの幼虫



ホタルの幼虫がカワニナを捕食中 [写真/岡野 博氏提供]

ホタルを守る
水辺の生きものを守る
豊かな自然環境を守る

ホタルを守ることは、ほくたちの生活を守ることにもつながるんだよ！



環境情報センターの図書コーナーにあります。



「ホタルの不思議な世界」サラ・ルイス 著 エクスナレッジ 刊



「いのちのかんさつ6 ホタル」中山れいこ 著 少年写真新聞社 刊

ホタルを守っていくために、どんなことをしているのかな？



ホタルの幼虫のエサになるカワニナもすめる環境を守ります。



遮光板取り付け
防犯灯に、遮光板を取り付け、明るくなりすぎないようにしています。

相模原にもホタルを守っているところがあるよ！

- 【中央区】 田名塩田
- 【緑区】 青野原、三ヶ木、牧野中尾、上河原

ホタルに会いに行くときの約束があるよ

- つかまえない
- カメラのフラッシュを使わない
- 大きな声でおしゃべりしない
- ゴミは持ち帰る
- おとなと一緒にいく

光でコミュニケーションをとっているから、じゃまをしちゃだめなんだね！



毎年ホタルに会うために、私たちにできることを探してみよう！

おどろかしたり、すみかを汚したりしないようにするのね。

ほかにも…

- 川や水辺の清掃、ゴミ拾い
- 川の汚れの原因となる生活排水を減らす
⇒洗剤を使いすぎない
⇒油や食べ残しを流さない